病院の実力

～群馬編 25

痛みの治療

腰痛 内視鏡手術も

12月の「病院の実力」は、痛みの治療を行うペインクリニックを特集する。2008年の治療実績などについて、日本ペインクリニック学会の指定研修施設（305施設）にアンケートし、180施設から回答を得た（回収率59％）。地域版では、病気ごとの治療実績を紹介する。

■頭痛

頭痛には様々な種類があり、痛みの場所や強さ、頻度などから原因を突き止め、薬を用いたり生活習慣を改めたりして治療する。首や肩の緊張で起きる緊張型頭痛では、麻酔薬などを神経に注射して痛みをとる神経ブロックを行うこともある。神経内科でも治療する。

■腰痛や首、肩、ひざの痛み

まず「なぜ痛むのか」を突き止めるのが重要だ。薬や、神経ブロック、痛む場所を曲げたり伸ばしたりする理学療法、血流をよくする効果などで痛みを緩和するレーザー治療を組み合わせる。手術を行う場合は、整形外科が担当することが多い。腰痛に対し、内視鏡を使った体への負担が少ない手術も、一部の施設で行われている。

■帯状疱疹（たいじょうほうしん）痛や帯状疱疹後の神経痛

水ぼうそうのウイルスは病気が治った後も体内に残り、体の抵抗力が落ちた時に再び、症状が出ることがある。これが帯状疱疹で、体の片側のみに小さな水疱（すいほう）ができ、締め付けられるような痛みが起こる。水疱は皮膚科で治療することが多いが、数週間で治っても、痛みは続くこともある。薬や神経ブロックで治療する。

■三叉（さんさ）神経痛

ほおに電気が走るような激しい痛みが走る。中高年に多い。治療はまず抗てんかん薬を使うが、十分な効果がなければ、神経ブロックを行う。長期間神経をまひさせる薬を使うことが多く、高度な技術が必要だ。最近では、高周波の熱で痛みを抑える「高周波熱凝固法」も行われる。

※全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は1月10日「眼科の病気」の予定です。

病院の実力「痛みの治療」

医療機関別2008年治療実績（読売新聞調べ）

	医療機関名	頭痛（人）	首、肩の痛み（人）	腰、背中の痛み（人）	ひざの痛み（人）	帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛（人）	三叉神経痛（人）
群馬	伊勢崎市民	7	23	56	0	17	2
	群馬大	2	5	5	0	20	20
	総合太田※	1	2	9	0	3	2
	県立がんセ	0	2	3	0	1	1
栃木	自治医科大	9	21	81	1	42	7
	独協医科大	11	61	113	8	49	19
埼玉	埼玉医科大かわごえク	10	156	320	22	75	14
	篠田中央クリニック	96	172	380	184	56	21
	藤村	31	76	87	46	75	34
	埼玉医科大	9	32	37	3	55	9
	埼玉医科大総合医療セ	4	17	85	11	34	5
	独協医科大越谷	2	8	48	5	68	30

「セ」はセンター、「ク」はクリニック。※7か月実績

がんの痛みに「神経ブロック」

伊勢崎市民病院・富田医師

伊勢崎市民病院（伊勢崎市連取本町）は、県内屈指の治療実績を誇る。麻酔科診療部長の富田行成医師に治療内容をたずねた。

――病院の特徴は

外来診療のほか、手術室で、高度な神経ブロックをレントゲン透視下で行っている。「透視下ブロック」と呼ばれる治療法だ。ブロック針を正確に操作でき、効果が高い。地域がん診療連携拠点病院なので、がんの痛みには「腹腔神経叢（そう）ブロック」という、内臓の痛みだけを取り除ける神経ブロックを積極的に行っている。膵（すい）がんや上腹部内臓がんの痛みに対して有効だ。がんの痛みは、モルヒネなどの薬物療法に加え、様々な神経ブロック療法の併用で軽減でき、生活の質を著しく向上させられる。

――透視下ブロックは簡単に行なえるか

習熟が必要で、しっかりした指導体制が不可欠だ。針先の位置を正確にコントロールするには、CT（コンピューター断層撮影法）装置で行うこともでき、より簡易だ。どちらも、治療の安全性は甲乙つけがたい。だが、当院では透視下ブロックが大半。麻酔科医師の業務が忙しく、CTがある別室の放射線科まで出向くことは難しいからだ。

――神経ブロックで、痛みは完全に取り除けるのか

ぎっくり腰のような急に起こる痛みは比較的取り除きやすいが、神経が傷付いたことで起こる痛みは難しい。薬物療法を始め、各種治療法を組み合わせることが肝要だ。